第２期　国分寺市公民館運営審議会　平成 29 年度第６回定例会　要点記録

日　時　平成 30 年２月 26 日（月）　午後３時 30 分～５時
場　所　杉並区立社会教育センター
出席者
　委員　佐藤（一）委員長・田中(英)副委員長・佐藤(敏）委員・長谷部委員・高塚委員・戸澤委員・佐藤(洋）委員・松井委員・大内委員・田中(雅）委員（欠席委員２人）
　職員　山崎公民館課長兼本多公民館長・野中恋ケ窪公民館長・加藤光公民館長・豊泉もとまち公民館長・本望並木公民館長・木場本多公民館事業係

１．連絡事項
（１）配布資料確認
（２）第５回定例会要点記録確認⇒修正がある場合は，３月 10 日までに連絡をいただきたい。

２．報告事項
（１）その他
事務局：今回は管外研修先での審議会になるため，教育委員会等の報告は次回にさせていただく。

３　協議事項
（１）管外研修について
（２）第１期答申「地域づくりを目指した公民館のあり方」と今後の審議について
委員長：この間，第１期公民館運営審議会答申「地域づくりを目指した公民館のあり方」について具体化していくための議論を行ってきた。管内研修での笹井先生の講義，また本日の管外研修での杉並区立社会教育センター事業「大人塾」の視察や地域づくりネットワークについて学んだことから，皆さんの気づきや感想を出し合いたい。
委員：公民館で学んだことが発展して，地域に広がっていくような連携を具体的につくることが大切だと感じた。
委員：独自性を持った国分寺市の５館体制を守っていくとことが重要だと感じた。また公民館運営審議会，公民館運営サポート会議，利用者懇談会などのアイディアをまとめ，つなぎ，育てることのできる専門的な力の重要性も感じた。
委員：ひとつのものを練り上げていくためには時間を要する。
委員：時間をかけ，一歩一歩行っていく必要がある。公民館とともに地域の良さや役割を発信していきたいと感じた。
委員長：話の中で「ゆるーく」という言葉が何度か出てきたが，地域のグループ

が発信したことが，「ゆるーい」つながりの中で残っていき，それを「大人塾」がバックアップしているということになる。

委員：今までの自分が抱いていた公民館とは異なる新しいイメージを持った。地域に住んでいる人たちの，顔が見える仕組みやテーマを考えたい。また，対象の年齢によって取り組み方が変わると感じた。

委員：都市部らしいケースだと感じた。国分寺市らしい取り組み方を大切にしていきたい。また，事業を行う時には，もう一歩進めて他の課との連携や他の利用グループとの協働を丁寧に行っていく必要があると感じた。

委員長：新しい刺激を受けて，改めて自分たちの足元を見るという感じだと思う。

委員：長年の積み重ねの結果としてできたものだと感じた。改めて職員の大切さを感じた。

委員：一つは職員力の問題。常勤で社会教育主事という専門職のコアがいたという事実がある。同時に，行政職員であることでの幅広い専門性を感じた。両方が必要だと思う。国分寺市は館長が一般行政であり，他の部局が何を行っているのかがわかる立場。その強みを活かしながら地域を幅広く捉え，学びという観点で事業を組み立てていくことができるのではないか。二点目は，杉並区では「大人塾」の修了生が学びの成果を活かし，市の審議会の委員になるなどの貢献があるが，国分寺市でも公民館の学びを通して地域に貢献しているなどの成果を「見える化」する必要がある。三点目は，若い層を取り込むためには，チラシやテーマの工夫が必要。従来の概念にとらわれないキャッチコピーを使うことも大事。また，学びや情報の共有に若い世代が馴染んでいる SNS などの活用を考えるべき。さらに講座の受講側と提供側とに関係を分断するのではなく，企画する喜びを感じられるような参画型の事業の進め方を行うことが大切。国分寺市はポテンシャルがあるので，若い層に企画に入っていただくことを考えてみてはどうだろうか。

委員：活動したいと考える人は大勢いると思う。ただきっかけがない。公民館は講座があって受けるところだと思っている。公民館の可能性をもっと知ってもらうことを考える必要がある。

委員：公民館という名前が馴染めないということもある。若い層に受け入れられる愛称を考えることもありではないか。

委員：公民館という名前に違和感はない。どこでしているかということより，何をしているのかが大切。

委員：ローカルなイメージはあるが，活動し始めると名称は気にならない。

委員長：職員から何か発言はないか。

事務局：小中学生が見学などで来館した際，公民館とは学ぶところ，活動するところと説明しているが，理解してもらえたか難しいと感じている。国分寺市では５館体制で地域の特性に合わせ事業展開し，人材の掘り起こしや，人と人とのつながりを深める努力をしてきたが，全市的に広がっているかというと大きな課題である。恋ケ窪公民館では地域会議の前段となる「恋ケ窪アカデ

ミー」や「地域を語るサロン」を行い思考錯誤している最中だが，試みとしては杉並区の「大人塾」に通じるものだと考えている。今回はとても良いヒントをいただいた。

事務局：光公民館では「お父さん応援講座」などで，公民館で学んだことと地域に戻った時のギャップを感じるという話を聞く。アイディアとして，公民館が５館あるので，同じ講座を各公民館で行い，好きな館で受けられるようにすることで，地域全体を考える機会となるのではないか。また，まちづくりや人材発掘に関しては各部署でそれぞれ行っているが，そうした縦割りを失くし連携していきたい。

事務局：杉並区で行っている「駄菓子屋学校」の車座トークを見学したことがある。今回，講座がその後の車座トークにつながったことを改めて理解できた。総合コースは「学び方を学ぶ場」である。若い世代は「学び方を学ぶ場」に魅力や興味を感じるのだと思う。

委員長：私たちは，学校的な学びというものを引きずっている。学びのリテラシーが必要だということである。

事務局：かつて，公民館講座は回数が多く，1 年間に及ぶものもあった。ある程度の回数を行う中で，参加者の関係が深まりつながりがでてくる。さらにそれが自分の周りの人へと広がっていく。講座の回数の問題があると感じた。

事務局：杉並区の方法を見ると，まずたまり場があり，そのたまり場に集まってきた人が地域を知るというステップを踏んでいる。次にその人たちが地域で何ができるかと考えるようになる段階がある。これまで，短期のスパンの事業を考えることばかりになっていた。まず場を作り，その中から自主的に問題意識が出てくるというような仕組みをつくることが大切だと感じた。また会場が公民館ばかりでなく，地域に出ていくという視点もあるのだと感じた。

委員長：古いお寺だとか商店街で行うと，より自由なたまり場になる。

事務局：公民館がどこにあるのかを知ってもらいたいという思いで，人が来てくれる講座を単発で行ってきた。地域会議や市民がつくる講座などで，地域の人や他の部署と情報交換しながら行ってきたが，参加者のその後のつながりについても考えていくことが大切だと感じた。

委員長：活発な意見がでた。管外研修として大変有意義であった。以前公民館があった３区もそれぞれ実態は異なり，公民館がなくなった後の社会教育の歴史についてもそれぞれ異なる。杉並区の職員から，その流れに身を置きながら，しかし社会教育の本筋を失わずに行ってきた実践を伺った。中央で発想し地域に返す流れがこの「地域大学」と「大人塾」をセットにしたものだと感じた。また「学び方を学ぶ」という発想など切り口が新しい。地域密着型の学びの場である「シブヤ大学」の人をアドバイザーにしているだけあり，カタカナの使用も多いし，そのカタカナが新しい雰囲気を醸し出している。また近年，地域の活性化は人づくりだと言われており，国は施設などのハード面から人づくりへとシフトしてきている。しかし，この人づくりという考え方

には「役立つ人」という発想が見える。しかし，今回のお話しは「役立つ人」ということではなく，一人ひとりの「自分本来（自分らしさ)」がどうしたら引き出せるかということであった。学校教育や社会教育と他との人づくりとでは異なる視点がある。その中で，国分寺市の答申は人づくりという言葉を使わず，学びや育ちという観点でとらえていくのだということを再確認する機会となった。「大人塾」のイメージ図を手がかりとし，国分寺市ではどのようになるのかを持ち帰り，次回の討論としたい。今後，４・５回議論し，これから出る諮問の答申案文を作成しながら検討していく。何を柱にするか，どういうところを重点かつ具体的にし，答申を発展させていくかを課題としたい。次回，事務局と相談したうえで柱立てについて提案する。より魅力的に，より市民に届くものにするにはどのような言葉を組み立てていくのか委員の皆さんのお知恵をお借りしたい。

４．　その他

（１）平成 30 年度審議会日程について

委員長：次年度当初の日程を決める。４月 16 日月曜日午後４時から６時，５月 21 日月曜日午後４時から６時，６月 25 日月曜日午後４時から６時，いずれも場所は本多公民館の講座室で行う。７月以降は第４月曜日とする。

委員長：以上で第６回定例会を終了する。